

## やるからできる

教師ならば、保護者から一度ならず「うちの子は、やればできるんです」という言葉を聞いたに違いありません。

実は私も、子どもが小さい頃、同じようなことをいっておりました。「やればできるのに」という思いが募れば募るほど「ついぞやっている姿を見せない」子どもたちに、ついイライラしたことが、今ではほろ苦い記憶として残っています。

エッセイストの岸本葉子さんは、高校時代、「やればできるというのは、それは甘えなのではないか。少し違うんじゃないか」と思っていたところ、ある時、英語の先生が「親御さんがやればできるというが、やるからできるんだ」といわれて納得したということです。勉強であれスポーツであれ、努力すればただ結果は付いてくるものです。勿論、「分かっちゃいるけど、そうはできない」というのも人間の弱さではあります。そういう意味からすれば、自分の立てた目標に向かって努力できるということも、一つの才能だと感じています。

先日、新聞の切り抜き帳を開いておりましたら、随分古い（1990年4月）朝日新聞の投書欄の切り抜きが出てきました。

それは、次のような内容です。

母親は学校から帰った息子から「努力して取った80点と、何もしないで取れた80点と、どちらが価値があると思う」と聞かれたそうです。その時母親は、何もしないで80点取れるんじゃないの？ どちらの方がいいのかしらと思ったそうです。しかし、息子の正解は「努力して取った80点」の方であり、何故なら、先生が「学校は努力する事を学ぶところだから」と話してくれたからだということです。そこで、母親は、努力というものにはほど遠い息子だったが、先生の言葉は彼の心に響いたようだと感想を述べています。

私もこの母親と同じ感想を持ちますが、教師が発する言葉の影響力の大きさ

を垣間見る思いです。

実は、今でも、「子どもがいやがることは強制できない」と考えている教師がいるという話を聞いて、驚いています。教育においては、子どもたちが面倒に思っているものであっても、しっかりと身に付けさせなければならないものがあります。その過程の中では、同じ事を反復して練習させるというような場面もあるでしょう。

「やればできる」ということは、「やらない限り」何も得られないということであり、やったことによって得られる成果は、その大小にかかわらず必ずや本人の身になり、自信にも繋がるはずです。

子どもたちにとって嫌なこと、面倒だと思っていることを如何にさせるか、これは、教師としての力の見せ所でもあるはずです。（塾頭 吉田 洋一）